

ふたかみ NEWS プチトマト

トピックス
古着市開催
詳細4面



ほまれっこ 冬の活動きろく

大人は動きたくなくなるような寒さの中ですが子どもたちに関係ございません！寒さに負けず外遊びにおやつづくりに室内遊びに活動も盛りだくさんの毎日です。お友達・職員と一緒に今日も走り回る元気いっぱいな、ほまれっこキッズたちです！

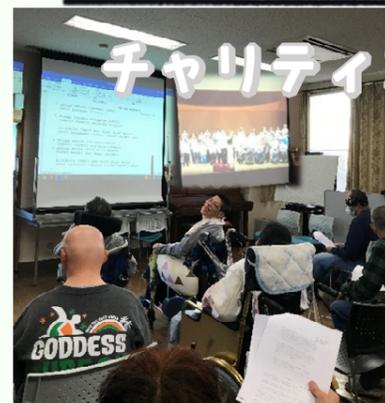


社会福祉法人ふたかみ福祉会

〒583-0841 大阪府羽曳野市駒ヶ谷 105 番地 1 TEL 072-959-3221 FAX 072-959-3264

Email: futakami@kagayaku-inochi.com <https://kagayaku-inochi.com/company/>

発行責任者：石本悦二 編集責任者：関口奈緒美



チャリティコンサートを思い出す

2026年12月に開催予定のふたかみ福祉会後援会主催のチャリティコンサートでは、数年ぶりになかまとボランティアの歌声を舞台上に乗せることができないか企画の検討が始まっています。

はびきの園の開所日にて、過去のコンサート映像で雰囲気を変えて感じてもらい、当時歌った曲を皆で練習しました。はつらつとした様子で歌声を響かせるなかまの一人は、「いつやるん？」と興味を示されていました。歌詞を覚えている方も多く、普段は音に敏感で耳を塞ぎがちな方も歌っておられたり、生き生きとした姿から音楽のもつ力を実感しました。（東）



きょうせれん 第49次
国会請願署名
募金運動
全国キャンペーン
2025.12.1 - 2026.4.1

障害があっても安心して
生活できる社会に



障害者権利条約を
地域のすみずみに
障害のある人たちを支える
制度づくりのための
署名・募金にご協力ください

cafeハピバール

2月の予定

定休日 毎週水曜/日曜

休み 15日(土) 22日(土)
24日(祝・月)

★Instagram★
[cafe-hapibar.com](https://www.instagram.com/cafe-hapibar.com)



お問い合わせ先】072-958-3232

ふたかみ福祉会後援会主催

全品 100円

春の古着市

3/7(土) 10:00~13:00
※雨天中止

翠鳥園横空き地(イズミヤ古市店横)
売り物：古着、靴、かばん
子ども服も
あります！

今回は回収を行いませんのでご了承ください

【お問い合わせ】〒583-0841 羽曳野市駒ヶ谷 105-1【法人事務局】ふたかみ福祉会
TEL (072) 959-3221 FAX (072) 957-2215

■後援会入会及び更新の方々（敬称略）

2025年12月

* 西岡美紀 / 大西雅子 . . . 5口

* 倉橋美津江 / 三好優太郎 / 田中恵美 . . . 1口

■ 寄付 . . . 陶芸クラブ 様

■ ボランティア . . . 垣内秀夫 様

■ アルミ缶回収（12月分） . . . 900kg

ありがとうございます

◆2025年度ふたかみ福祉会後援会入会、更新のお願い◆

皆様の引き続き日中支援事業所や相談支援へのご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

【個人会費：1口2,000円 団体会費：1口10,000円】 郵便振替口座：00940-5-325894

個人会費については6月の総会で、2025年度からの会費の改定をしています。

法人内研修『「この子らを世の光に」を胸に』

1月10日の法人職員会議は天理大学准教授の深谷弘和先生に来ていただき、「権利保障としての障害者福祉」をテーマに講演していただきました。

もし「福祉は何のためにあるの？」と尋ねられた場合、何と答えるか？という問いでグループワークをすることから始まりました。職員一人ひとりの中にも答えはあると思いますが、その答えが漠然として、言葉にする難しさを改めて感じました。様々な意見を交流する中、深谷先生が言われたのは、「福祉は『権利を守るため』にある」でした。

講演では、福祉の成り立ちを分かりやすく説明してくださいました。「封建社会」(支配層と被支配層が明確)から「近代社会」(個人の権利や自由を重視)へ移り変わりました。また、景気の動向や非常時(戦争・災害)による失業や疾病・障害・高齢などを理由とする失業等が社会問題として生まれ、労働をすることが出来ない人々は「個人的な責任なのか」という状況

から、国家が生活保障を行う「福祉国家」の考え方に移行していきます。

1980年代頃から福祉国家体制の揺らぎが起こり、新自由主義へと移行します。大きな特徴としては、①民営化、②規制緩和、③社会保障の削減、の3点で、措置制度から利用契約制度へと変わり、自助・共助という言葉と共に自己責任が求められるようになりました。

障害福祉現場に従事する職員に求められることとして、2つの役割を挙げられました。一つ目は、「社会福祉の法律や制度に基づいて支援を行う」こと。そのためには制度への理解がより一層求められます。二つ目は、「利用者の現状を元に、まだ利用できていない人、利用が限られる人を行行政や社会に働きかける」こと。現状の制度では十分なこと国に求めるための署名活動などが当てはまります。そして障害者福祉の仕事は、「単に障害のある人をサポートするだけではなく、障害のある人を通して、すべての人が暮らしや

きょうされん居住支援部会

「雑談もして変化のある日常を」

きょうされん主催のグループホーム生活施設学習交流会に参加しました。午前の部では情勢やきょうされん活動報告、介護保険の実態と今後の高齢者課題についての報告を受けました。いのちのとりで裁判の歴史的な勝訴判決や能登半島地震の復興が遅れている話、職員不足の実態調査などの報告を受け、自身何ができるのか改めて考えるきっかけになる内容ばかりでした。

後半は各分科会に分かれ実践レポートを軸に交流を行いました。レポートの内容は県立入所施設に長年住んでいて地域移行した、強度行動障害の状態にいるFさんの支援についてです。

Fさんは体験利用の時から壁蹴りやドアを叩く、大声を出すなどの行動が見られました。当時、支援者は「どう行動を抑えるか、刺激を減らすか」に意識を向け環境調整や支援のマニユアル化を進めました。しかし、一定の効果が見られたが表情は決して穏やかとは言えなかったと報告を受けました。その後、

すい社会の実現を目指す仕事」とまとめられました。エピソードとして、椅子ユーザーが駅にエレベーターの設置を要望したところ、駅側は椅子ユーザーだけのために作ることは出来ないとの返答でした。しかしいざエレベーターが設置されると、ベビーカーを利用されている方や歩くことがしんどい方、大きな荷物を持たれている方など、様々な方々が使用されたと話が分かりやすくとも印象的に残りました。

今回の講演を受けて、社会福祉がどのように移り変わってきたのかを自分なりに改めて整理できました。私が入職してからも社会福祉を取り巻く状況は大きく変わっています。しかしその変化に振り回されずに、私たち職員に求められる2つの役割を大切に、そして、深谷先生が最後に紹介をされた系賀一雄先生の『この子らを世の光に』ではなく、「この子らを世の光に」の言葉を胸に支援をしていきたいと改めて感じました。

(田邊朋)

きょうされん

「第49次

国会請願署名」

国会請願署名行動が始まりました。この活動を続ける事で、少しでも障害のある仲間達が安心して生活が出来る事を願い活動に取り組んでいます。

今回、新しく出された請願項目に「障害のある人たちが十分な支援を受けられるよう職員不足の最大要因である低賃金を解消するため、基本報酬をはじめとした公費を大幅に引き上げて下さい」という項目があります。この項目は障害のある仲間からの声をもとに新しく出来た項目で現在も職員不足は続いており、職員不足が続くと、仲間にも十分な支援ができなくなってしまいます。仲間が当たり前に働き、自身が望む暮らし方ができるように、この声を国に届けると共に、現在の深刻な現状を一人でも多くの人に伝え、知ってもらえたらと思います。

(松田)



二十歳のお祝い

ハッピーバースデーは1月12日、川西菜穂さんの成人のお祝いをしました。とても恥ずかしがりやなので先輩が寄り添ってくれていました。家族さんからのお祝いの言葉に涙する場面もあり、感動の式となりました。

(大西)

還暦のお祝い



12月24日、はびきの園で月に一回全班が揃って行われる全体会を行い、そこでアクト班の豊福さんの還暦祝いをしました！いつも元気な豊福さんにとって素敵な一年になりますように。改めて、おめでとうございます！

(金田)